





# 今はただ感謝のみ そして明日に向かって!!

## 徳島全国大会報告



### 全国大会 大会発表 北島 重利

最終的には世界的なレベルで評価されている徳島の4企業、企業の企業見学及び社会経済に役立てました。

特に大変のあるジャネットシスタームについては、当時は無理と言われて津川社が本人の講演をいただくことができた、ありがたさを感じました。

大会参加者が楽しみにしていた大会は、厳格な審査を経て、最高の成果を挙げ、思い切った決断により、昨日の大会に出場した。

しかし、徳島らしい全国大会にしては少しという私たちの思いは十分に届かずに、大会の開催に感謝すると、徳島YEG、徳島県連が次なる展開に呼びかけられた。

最後に、この大会で、主として「YEGが中心で行って欲しい」という思いが、主催者にも伝わりました。

「YEGが中心で行って欲しい」という思いが、主催者にも伝わりました。そして、この大会で、主として「YEGが中心で行って欲しい」という思いが、主催者にも伝わりました。

「YEGが中心で行って欲しい」という思いが、主催者にも伝わりました。そして、この大会で、主として「YEGが中心で行って欲しい」という思いが、主催者にも伝わりました。

今年、第17回徳島工業連合青年部全国大会を徳島へ、改めて大会を盛り起ると、様々な出来事がありました。徳島YEGに入会して4年と経ちますが、大会、地方イベントなど、全国的な取り組みは、徳島YEGが中心に行っています。

大会を盛り起ると、様々な出来事がありました。徳島YEGに入会して4年と経ちますが、大会、地方イベントなど、全国的な取り組みは、徳島YEGが中心に行っています。



## 「YEGヤングリーダー研修」

研修委員長 宮川 卓久

本年、青年部は創立15周年という大きな節目を迎えるにあたり、仲間スローガンを「直接交流・直接実感」実践して共に歩むYEG新たな出発点と掲げ、創設期から発展へと、そして21世紀への新たな出発点と位置づけられています。

各地方工業連合青年部会員の若手経営者又は後継者の資質向上を図ると同時に、全国規模にて、交流と研習を通じて地域や各事業の交代を担うリーダーの育成を目的に実施しました。

なぜならば、各事業で得意の世代が卒業し始める時、次世代を担う若手メンバーのレベルアップを図ること、そして全国ネットのつながりを直接実感で実感できる機会を体験したい。大変だけれども、誰かがいつかやらなければならないのなら、今年度取り組もうという大会会長の熱い思いからスタートした研修事業であります。

しかし、初めて取り組む事業であり、前中では理解できていても、具体的にどんな内容にしたらよいのか、参加者に満足いただけるのかを研修委員会担当の足立副会長と共に委員会を機度なく開催し、少しでも大会会長の思いが実現できるように研習にしたいと思い続けてきました。

研修、講演会、実習、そしてパネルディスカッションなど内容盛り込み、参加者より大変な評価を頂きました。また、交流も大変盛り上がり、全国のメンバーの交流ができたことを嬉しく思っています。

研修、講演会、実習、そしてパネルディスカッションなど内容盛り込み、参加者より大変な評価を頂きました。また、交流も大変盛り上がり、全国のメンバーの交流ができたことを嬉しく思っています。

研修、講演会、実習、そしてパネルディスカッションなど内容盛り込み、参加者より大変な評価を頂きました。また、交流も大変盛り上がり、全国のメンバーの交流ができたことを嬉しく思っています。

研修、講演会、実習、そしてパネルディスカッションなど内容盛り込み、参加者より大変な評価を頂きました。また、交流も大変盛り上がり、全国のメンバーの交流ができたことを嬉しく思っています。



研修委員長 宮川 卓久

- 記念会食講演会
○ジェエスエム 30人
○徳島県工業連合 10人
○徳島県化学工業 10人
○徳島県建設業 10人
○徳島県観光 10人
○徳島県文化 10人
○徳島県観光 10人
○徳島県文化 10人
○徳島県観光 10人
○徳島県文化 10人

研修委員長 宮川 卓久

研修委員長 宮川 卓久

研修委員長 宮川 卓久

研修委員長 宮川 卓久

- 委員長 北島 知志 (徳島YEG)
委員 千原 真 (徳島YEG)
委員 林山 明彦 (徳島YEG)
委員 林山 誠 (徳島YEG)
委員 林山 誠 (徳島YEG)
委員 林山 誠 (徳島YEG)
委員 林山 誠 (徳島YEG)
委員 林山 誠 (徳島YEG)

研修委員長 宮川 卓久

# 直接話そう!! 直接交流しよう!! 姉妹提携

# YEG パートII

## 〈高岡YEG〉

岐阜県高岡市商工会議所青年部との交流は、昭和55年8月に開市より20名が視察研修を目的として来高されたことから始まっている。

その後、昭和57年10月の高岡での第2回全国大会において田交を始め、引き続き長靴交換や野球、ゴルフ等のスポーツ交流を行ってきた。

昭和59年9月開市において、第2回東海経済ブロック産業研究会が開催されたのだが、それを機に、その前日に高岡青年部が姉妹青年部の締結をし、調印を行った。

その機嫌は、「積極的に一体的な行動を起こすことによって、各々が地域経済の健全な発展を図る」という青年経営者の使命をはたすことができるといふ意であった。

この日(昭和59年9月17日)、高岡部会から上田博会長をはじめ約40名、開市会から約40名が出発し、開市会議所3階ホールにおいて調印式が行われたのだが、開市会が姉妹部会として選定に至ったのは、岐阜県高岡市が「友好」のまちとして有名で「伝統産業を有する」「観光地域に類似点がある」「お互いに交流が深い」という特徴があったからである。

その後、開市青年部と高岡青年部は今日まで記念事業やイベントその他、委員会単位での輪流会等の交流を継続している。

昭和60年、開市会は10周年を迎え、その記念日には開市長の祝辞と共に、当時の会長第2代会長高田一二三氏の10周年に対する祝辞が見られる。

平成6年には、姉妹青年部として10周年を迎え、お互いの青年部の異なる特徴を称え、高岡には「花水木」をそれぞれ記念樹としている。

今後は、両市の経済交流を活動に据え地域経済の発展に貢献するために、具体的な即効性のある輪流会等も計画していきたい。

## 〈関YEG〉

昭和54年、関YEGは、開市会議所会頭のお力添えで誕生をあげました。当初私たちは、商工会議所青年部というものがよく解らなかった為、青年部の先輩であった高岡YEGをお手本として、組織や機能的な基礎を作るよう、昭和56年より交流をお願ひして現在の状況を作ってきたのです。

昭和59年、当時の高岡・関YEGの会長の発案で姉妹提携を結ぶ事となり、9月17日、関で調印式を行いました。以来互いの周年記念に出発するのはもとより、視察旅行・スポーツ交流・ゴルフ等でも友情を深めてまいりました。平成6年には、姉妹提携10周年を記念して姉妹を高岡・開市市で行ないました。平成8年度関YEG主催で行なわれました東海ブロック大会にも、高岡YEGから参加頂き、良い関係を築いています。

本年度、関YEGは創立20周年を迎えます。やっと大人の仲間入りといったところで、今までの足跡をたどり互いの関係を大切にするのはもとより、一日も早く大人の高岡YEGに肩を並べられるよう、レベルアップに努めたいと思っています。

「本年度関YEGの事業」

本年度関YEGは、会員のレベルアップの為の充実した例会をめぐっています。5月には、大ベストセラー「豚の革命」の香山茂雄氏を講師に迎え例会を開催し、開市会へのYEGのPRと、還元を目的に、オープン例会として一般の方へも無料公開とし、1,000名以上の参加を得る事ができました。

「関の特産品」

関と言えば、名刀「関の長六」に代表される、ナイフ・包丁等の刃物が有名です。その中でも、今話題は、リサイクルハサミです。以前、両市連に出向してました長谷川義信君の会社で作っているもので、ハンドボールや、切りにくい中乳パックの裏が簡単に切れたりする便利なハサミです。



- ♥ 姉妹YEG
- 高岡(富山)—— 関(岐阜)
  - 氷見(富山)—— 大町(長野)
  - 魚津(富山)—— 横須賀(神奈川)
  - 黒部(富山)—— 浜田(島根)
  - 水戸(茨城)—— 敦賀(福井)
  - 洲本(兵庫)—— 大田(島根)
  - 江戸川(東京)—— 鶴岡(山形)
  - 長門(山口)—— 米子(鳥取)
  - 別府(大分)—— 指宿(鹿児島)
  - 大村(長崎)—— 沖縄(沖縄)
  - 米沢(山形)—— 高鍋(宮崎)



## 〈高鍋YEG〉

平成9年12月3日、姉妹の真実が伝えられ昭和22年に高鍋商工会議所が誕生し、38年の歳月が流れた記念の日、創立50周年記念式典のメイン行事として、約230名の出席者に見守られ、米沢YEGと高鍋YEGの21世紀を担う青年たちが、友好姉妹青年部提携調印式を執り行ないました。調印式には、遠く米沢から佐川常務理事、青年部副会長以下4名がはるばる駆け付けてくださり、両市青年部にも盛大に行なうことができました。

調印書「新たな青年経営者としての友好関係を構築することにより、互いに切磋琢磨し、商工会議所青年部

の使命である次世代への先導者としての責任を自覚し、地域の経済的発展の支えとなり、新しい文化的創造をもつて豊かに住みよい郷土づくりに貢献することを誓約する」にサインをし、両YEG会長が調印書を交換すと、記念式典会場に拍手が巻き起こり、両YEGの連携に対する期待の高さを痛感しました。

米沢市と高鍋町の友好の歴史は古く、今から240年前、右近上杉景公が米沢に移られて以来続いておられますが、その240年のときを超えた先人たちが築いてこられた友好の歴史を大切に、今後、地域の商工業の発展を目指して、皆様のご期待に添うべく連携活動を行なっていくことを決意した次第です。

## 〈氷見YEG〉

①姉妹提携時期 平成9年8月30日(土)  
②いささつと目的 姉妹YEGのある長野県大町市と氷見市とは昭和47年11月より姉妹提携を結び、当地は交流が盛んであったものの、ここ数年は老干の行き来があるだけであった。

そこで、姉妹都市としての意義を確認するべく、氷見・大町のYEGが両市のパイプ役を担うため姉妹YEGの発足を結んだ。そして、その先に両市の都市氷見と山の都市大町という異都市との交流を図ることで、両市交流及び文化等の交流・伝達を願っている。

③メリット イベント・まつりそして、青年部事業において気軽に相互参加ができることで、両市のPRが期待でき、また参加費をすることで、イベント等を盛り上げることができる。

また、現在では青年部という垣根を超え、個人・家族としての交流を行うことができるようになっていく。

④姉妹事業の現状 イベント・まつり等はもろもろ簡易な輪流会等にも相互に参加しており、また今年度は合同家族例会も予定している。

⑤将来展望 交通事情、情報化等の発達を見越した活動を起こすため、現在の交流をより一層発展させ、青年部の活性化はもちろん、自企業、そして地域の活性化を目指して邁進して行きたい。

⑥新規提携の計画 現在姉妹提携の予定はありませんが、岐阜県各郡市のYEGと交流を図っています。(東海北陸自動車道の開通を見越して)

⑦事業、特産品、ミスコンの紹介等

- 事業…氷見南工感謝祭、ひみまつり、ひみ夜まつり、まるまげまつり、ひみキトキト元氣村、ひみキトキト大大学等
- 特産品…氷見イワシ、寒ブリ等の魚類、塩干物、氷見牛、氷見うどん、銘酒、大数餅・福起こし
- ミスコン…青年会議所中心となり氷見祭り(8月)に決定している。ミスは3名決定し3名とも「ミスキトキト」と呼ばれる。

☆幹事のミスは、上の3名です。



## 〈大町YEG〉

①姉妹提携時期 平成6年8月30日  
②いささつと目的 長野県大町市と富山県氷見市は昭和47年11月より姉妹都市として調印したが、行政間の交流は若干あるものの民間レベルでの交流はほとんどなかった。

そこで、姉妹都市としての意義を確認するべく、大町・氷見のYEGが両市のパイプ役となり、「まずは経済界からの交流」ということで姉妹YEGの提携を結んだ。

これは、単に経済交流だけでなく、山の都市大町と海の都市氷見という異都市間の交流を図ることで、人と人との繋がり、地域文化の交換・伝達を願っている。

③メリット 各種イベントや青年部事業において相互参加ができることで、他都市の発展が出来たり、両市のPRが簡単にできる。また参加費をすることで、イベント等を盛り上げることができる。

現在はYEGの垣根を超えて個人、家族としての交流が行われている。

④姉妹青年部の現状

両都市で行われている各種イベントへの参加はもろもろ両青年部事業へも参加している。今年度は、氷見YEG開催の家族例会への参加を計画している。

⑤将来展望 今後は現在行われている交流から一歩前進するように、より活発な青年部活動を展開する。また、青年部同志の交流はもろもろ個人同士との交流も活発に行い、両地域の活性化に結び付けたい。

⑥新規提携の計画 なし

⑦事業、特産品、ミスコンの紹介等

- 事業…エリアサミット・イン・おほまち、講習会・勉強会等、大町祭り、大町やまびこまつり、他に行政・会議事業への協力
- 特産品…信州そば、りんご、松崎和紙、おざんざ、刺子(白馬刺子・金剛刺子・北安刺子)
- ミスコン…ミスコンは現在行っていないが、大町の観光等の案内役として大町レディーズ(かたくり、こまき、アルプス)3名が4月から3月まで1年間活動している。

上杉景公まつりでのイベント



## 〈米沢YEG〉

提携そして共生へ、YEG新たな出発』に基づき、地域連携事業の第一歩として正式に友好の誓約を取り交わしたものです。

調印式では米沢YEG青年部会長と高鍋YEG青年部会長が青年経営者同士の友好関係を築いていくことにより、互いに切磋琢磨し、両地域の経済的発展に寄与することを誓い合いました。

上杉景公は「なせばなる、なさねばならぬ何事も、なれば人のなまぬかりなり」と申されたそうですが、行動こそ時代を先駆けるべき青年の責務と信じて、米沢・高鍋両地域の礎となることを期しております。

米沢YEG(山形県)と高鍋YEG(宮崎県)では友好姉妹青年部提携を結ぶ。去る12月3日高鍋町において調印式を執り行ないました。

高鍋町と米沢市は上杉景公の養子縁組を結んだことから縁を結ぶ。二百数十年の月日を経た現在でも、両青年部はこの歴史的関係を伝承し、交流を深めてまいりましたが、今年度スローガン「直接交流・直接実現







# アジア商工会議所連合会 理事会開催

(CACCI)

副会長 岡井 謙 志  
専任理事 木 川 雄一郎  
平成9年11月6日・8日  
に韓国済州島で開催された  
アジア商工会議所連合会  
(Cacchi)の理事会  
Public Chamber of  
Commerce and Industry  
-CACCI-

貴族院理事會に同会議の議  
長である大西文夫大蔵省工  
會議長、日通商會議長  
「の事務で大村会長、足  
立副会長、木川専任理事  
で参加しました。加盟国は  
東・東南アジア諸国にオー  
ストラリア、ニュージーラ  
ンドを加えた21ヶ国です。  
懸念された輸出は2月にシ  
ンガポールで開催された同  
議合の立派委員会の席上  
で、国の活性化には青年経  
済人の活躍が重要であり、  
日本にはその活動を促す会  
議活動の促進普及の目的  
を宣言する商工会議所青年  
部が設置されており、活  
に活動している旨の演説が  
出され、各国とも是れその  
内容を聞きたいとの要望が  
出たためであります。席上、

大村会長は、まず日本での  
青年部設置率が約6%と  
高く、日本の商工会議所  
の活性化が進んでいること  
を説明し、夜に懇親会対策  
地域活性化のためのイベン  
トの企画や実施、地域振興  
ビジョンの策定、さらには  
商工会議所連合会に参加す  
ることにより関心と理解を深  
めるとい  
う目的が  
あること  
を説明し  
ました。  
また、  
Cとの目  
的の違い  
を含む動  
議の無い  
ことを説明  
し、政府  
16年の出  
立、政府  
（連立青  
年部）の  
活動状況  
等について  
言及し、  
今後も前  
進して参  
ります。



# 若手官僚との交流会開催

平成9年12月2日、官庁  
の私邸を会場、連携を図る  
若手官僚のメンバー「演説  
会」との交流会を開催しま  
した。本会は商工会連盟の  
を担った理事有志が「演説  
会」を主催し、これを目的に地  
域交流センター（田中東市  
市長）とお集り開催したも  
ので今回は第2回目となり

まず、平成9年度出陣青年  
から演説者と官僚の皆さん  
両者の方々に出席頂き、蒸  
汽機関の発展、若手行での自  
分の取り組み内容と自己紹  
介と共に語り合いました。  
また、演説者側も自分の  
地域の関する演説事業の  
説明をし、理解を求めまし  
た。国の国土開発計画も進  
み、若手官僚との交流も進  
められて参ります。

# 平成10年度各委員会の事業計画

委員会名	検討事項
総務委員会	①委員会総会、役員会の開催 ②日誌幹部との懇談会 ③規約の見直し ④プロダク大会開催への助言 ⑤その他（他の委員へに譲らない事項の検討）
企画委員会	①第18回全国大会（青森）への開催、助言 ②第16回全国会長研修会（今治）の企画、運営、助言 ③全国大会、全国会長研修会、プロダク大会立候補の受 理と検討
研修委員会	①YEGヤングリーダー研修の企画、開催 ②期生業の企画、開催
広報委員会	①雑誌「青年」の発行 ②「石垣」の企画、開催 ③「石垣」の企画、開催 ④「石垣」の企画、開催 ⑤「石垣」の企画、開催
特別委員会	①YEG連携事業の推進 ②地域振興普及及びプロダク特別委員会の活用 ③小委員会による同業種交流の研究と活用 ④「ビジネス交流」の協力の企画、検討
プロダク代表 理事会	①プロダク大会開催 ②「プロダク大会開催」の作成 ③各地青年部、都道府県連合会、プロダクの活動支援 ④特別、プロダク特別会議の開催支援 ⑤未加入青年部の加入促進 ⑥青年部連連の設置促進 ⑦プロダク内へ演説者活動の情報提供

# 「まってるはんで、青森さ、こいへ!!!」

第18回全国大会青森大会 実行委員長 後藤 薫

私たちが青森商工会議所青年部は  
「まってるはんで、青森さ、こいへ!!!」  
と叫ぶ。感動シテイ青森。を相  
談スローガンに掲げ、大会開催へ  
の「思い」と「ビジョン」をコン  
セプトに平成10年11月全国大会、  
青森大会を開催します。

「思い」では、「全国の仲間が  
感動の気持ちを抱えたい」、「地域  
活性化の機になる決意を伝えたい」、  
そして、「雄大な自然を伝える  
ため、互いの切磋琢磨を呼びか  
けたい」とアピールしました。

青森県は、その自然の豊かきや  
ら長べらもちにも、そして磨りか  
り磨りか、文化などでも全国に誇を  
れるものがそろっています。特に  
5000年以上の昔の縄文遺跡、  
「内丸遺跡」が登録されてからは  
日本中に縄文ブームを起こしてい  
ます。それだけでなく、何よりも、  
青森に住んでいる人々のすばらし  
さ、認めたるエネルギー、それら  
を私たちが自身は体現して全国に  
「伝えたい」と思っています。

「ビジョン」では、「地域を地  
域、地域内外の結び手」、「市民と  
市民、市民と行政との結び手」、  
「地域政策と実行の結び手」、とし  
て「公衆の理解と会員、商工業  
と地域振興の結び手」となること  
を宣言しました。

ともすれば「思いつき」ことを  
なすのが青年と見られる青森の  
人々。これまで地域内外と手を結  
び、そろそろこのことによって特  
別するよりもはるかに大きな可  
能性が得られることを実感しまし  
た。全国大会では、青森と全国とを  
繋ぎ、青森だけではなく、日本の青森  
という位置付けで、「結びたい」と  
強く思うのです。

どんなに素晴らしい計画でも、  
それが具体化され実行されなけれ  
ば無意味です。私たちが自ら  
が実行したいことを行政に依存す  
るのではなく、私たち自身で実行す  
るよう努めてきました。さらに、  
全国の仲間と協力し、数回四方文  
字でいきたいと思っています。幸く  
可能性があります。存在する価値はあ  
ります。それに関する「ことごとく  
向かっていく、そして、「かなえたい  
」。そのためのステップとして  
全国大会を数回付けたいと思っ  
ています。

伝えたい、結びたい、かなえたい  
。それぞれの思いがかけあう  
。そのまち、親友の存在（愛）を、  
青森

このコンセプトワードのもと、  
「日本の感動を語りあう、縄文  
の森YEG」をテーマにヤングア  
ーミーズに、平成10年11月5日より  
17日、お祭りならぬお祭りならぬ  
お祭り、お祭り、縄文文化の  
流れを受け継いでいく。また、  
東北青森のすばらしさを、「青  
森の地」、「全国の仲間と手を結  
び、まってるはんで、こいへ!!!」と  
宣言してもらいたいと思っていま  
す。

